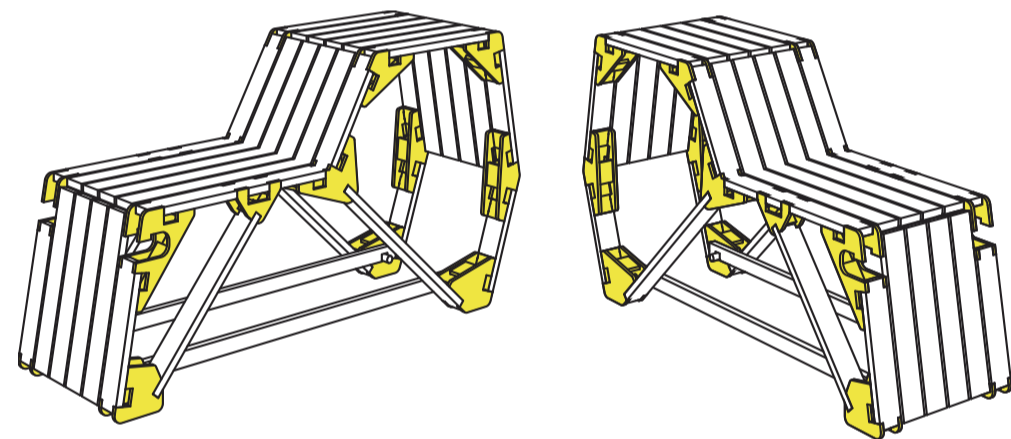
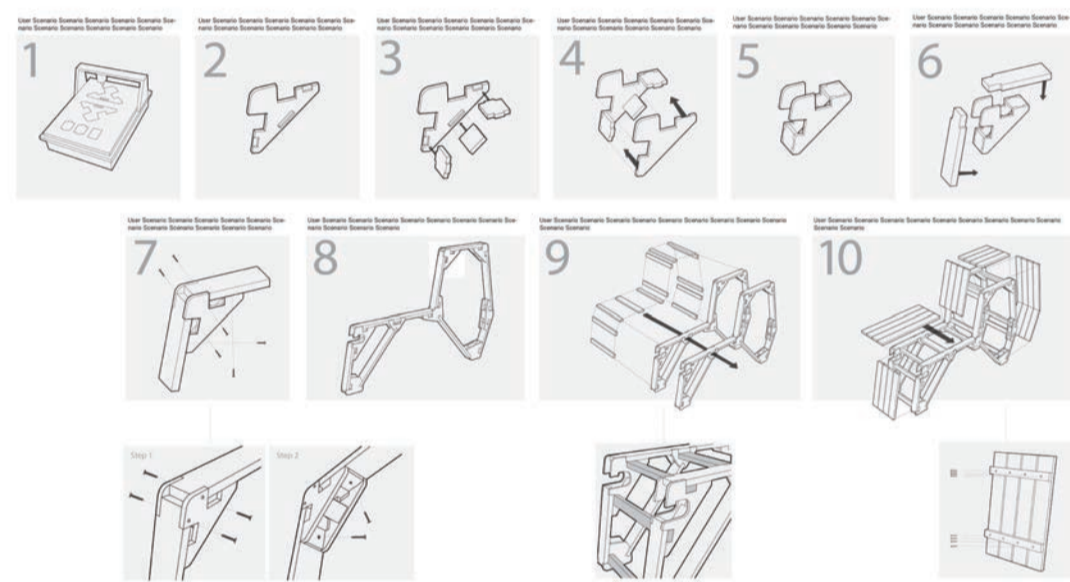


西千葉ストリートハックプロジェクト

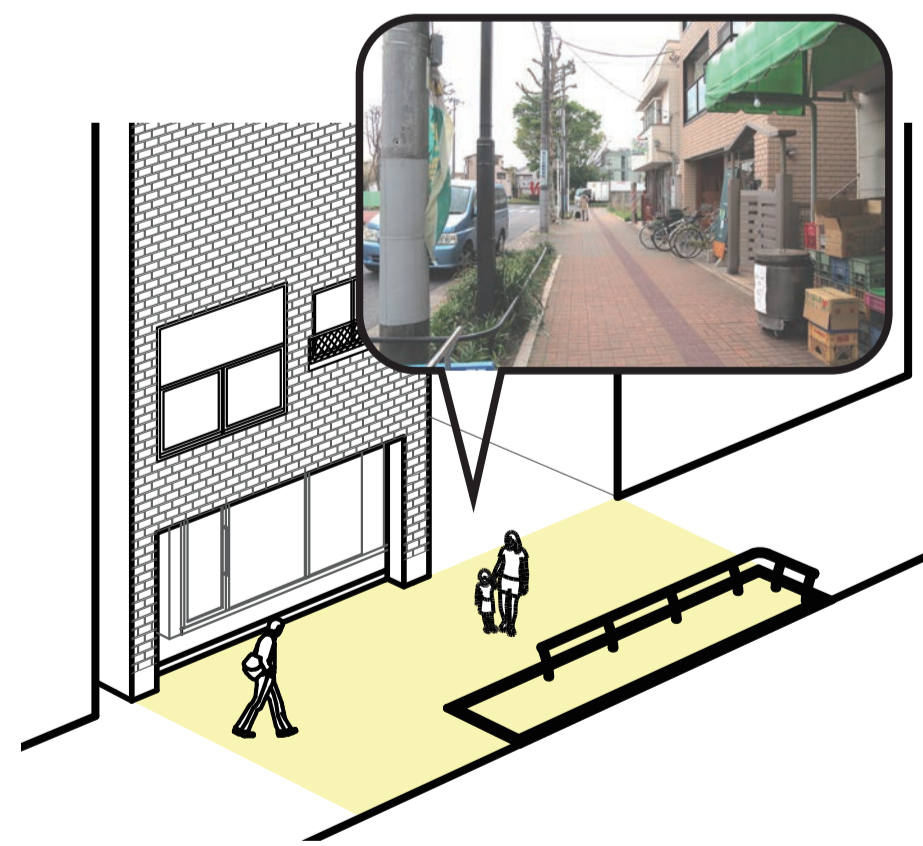
慶應義塾大学・西千葉工作室



1. プロジェクトの目的

自らの手で公共空間を自分の使ってみてみたい場所に変えていけないだろうか？
本プロジェクトは、インフラストラクチャーの老朽化対策や有効活用に課題を抱える地域に対して、市民自らがものづくりを通じて様々な賑わいの場を作りだしていく、街の中で使用可能な家具を提案する。実践的な事例を増やしていき、最終的にはサービスとして地域での運用を目指す。

2. 鍵となる研究開発テーマ



家具一例えばベンチやテーブルが街に置かれたとき、その場の価値や役割は変容し定義しなおされる。しかし、人々が好き勝手に作ったり、買ってきて設置したりするだけでは、街の景観は雑然となるだけで、場合によっては価値が損なわれることになる。このようなことが生じないようにするには、その場にどのような価値や機能を与えるか、あるいは見出すかということについての合意形成と、関係者の巻き込み、そ

して、デザインの統一による一体感の形成が必要不可欠となる。
合意形成や巻き込みには、プロトタイプを通じた問題提起や課題発見、地域住民を交えたワークショップなど様々な手法のトライアンドエラーを通じた方法論の構築が必要である。また、都市エレメントには、統一感を備え、安価に作ることができ、容易に設計、製作できるデザインキットが有用である。

3. アプリケーション内容

①西千葉工作室とのコラボレーション

西千葉工作室は、京成千葉線、みどり台駅から千葉大学へと続くメインストリート（学園通り）に面したビルの一階にあるファブ施設である。学園通り沿いには植え込みが多くあるが、1年のうち数ヶ月しか花が咲かないため、オフシーズンに何とか有効活用したいとの声があった。我々はこの課題の解決を目指して、工作室の前の植え込み（公共空間）を対象に、家具をデザインし、実際に設置して、賑わいの場を作りだすフィールドスタディを行った。

②ヒアリングとワークショップの実施

工作室スタッフと街の中で欲しい家具についての「アイデア出しブレインストーミング・ワークショップ」を実施した。ワークショップで上がったキーワード「映画を見る」「子供向けワークショップの会場」「小さなベンチ、休憩場所」「座れる」「相談スペース」を元に、家具のデザインキットの開発を進めた。

また、デザインキットを組み合わせて家具をデザインするワークショップも行った。決定したデザインに基づいて、工作室のDIY設備を活用して木材等の加工、組み立てを行い、実際の場所に設置もした。今後、この家具のデザインキットを活用し、さらに事例を増やし、工作室での自立運営を目指したい。

